

公共施設の未来を考える意見交換会 概 要 報 告

日 時 平成30年5月18日(金)18時30分～20時05分
場 所 稲川生涯学習センター 視聴覚研修室
対 象 地 区 稲川地域(稲庭地区、三梨地区、川連地区、駒形地区)

参 加 者 14 人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
稲庭地区	2	2	0	0			0			0			2	2		0			0		
三梨地区	5	4	1	0			0			0			0			3	3		2	1	1
川連地区	2	2	0	0			0			0			1	1		1	1		0		
駒形地区	3	3	0	0			0			0			0			2	2		1	1	
そ の 他	2	2	0	1	1		1	1		0			0			0			0		
計	14	13	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	3	3	0	6	6	0	3	2	1

市 出 席 者 湯沢市公共施設アドバイザー、
企画課長、企画政策班長、担当

概 要

開 会

あいさつ

企画課長



説 明

①公共施設の現状と今後の取組 (企画課)



説明

②公共施設の最適化に向けて ～湯沢市民はどう関わるか～

(湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏)



質疑応答、意見交換



・施設の稼働率について、人口構造の変化によってニーズが変化しているが、市の政策としてどのように施設利用に誘導してきたのか分からない。体育館について、スポーツ振興と言いながら小中学生に無料開放していないのに、稼働率が低いと言うのはいかがなものか。

⇒(アドバイザー)スポーツ施設の目的は、市民の健康づくりや余暇の活動の場を提供することのほか、スポーツ人口を増加させること、競技意識を高めて国体や五輪に出場するような人材を育てていくこと等であり大きな役割がある。しかし、現在は場所を提供することだけとなっており、人材の育成につながっていない。施設をなくすことは難しいと思うが、もっと稼働率が高まる充実した施設になるためには、どうしたらよいのか管理運営方法を見直す必要がある。中身をよくすることによって、利用者の増加につなげることも可能である。料金体系については受益者負担が原則であると考えます。

・地域が自主財源を確保するための活動の場として、拠点施設がなければ困る。

⇒(アドバイザー)これから、市にとって必要なのは地域経営、地域づくりをどのように行っていくのかを考えることであり、その活動拠点をどこにおくのかは重要である。またソフト面でも、市はどのように地域活動をサポートしていくのかを併せて、仕組みづくりしていかなければならない。

・現在指定管理となっている施設がたくさんあるが、本来の指定管理の在り方ではないように感じる。利用料収入から若干でも利益を上げられるような仕組みであれば、もっと良い運営ができるようになるのではないかな。

⇒(アドバイザー)市で行っている指定管理の方法について課題を感じているので、改めるべきところは指摘していく。

・施設の目的を変えればもっと有効活用できる施設があるように思う。遊休施設についての情報提供を徹底していけばもっと違う使い道がでてくるのではないかな。

⇒(アドバイザー)施設の再編にあたっては、時間と空間を使い切るという発想から、各部屋が有効に活用されているかどうか点検していくこととしている。施設の情報については、今後ホームページ等で公開を予定している。

・計画策定までの間でも、進めるべきものは進めていただきたい。

⇒(市)緊急的に対策を講じる必要性がある施設等、総合管理計画の短期方針として示している重点的に取り組むべきものについては、策定期間中であっても進めている。

・趣味で行っている活動で施設はよく利用しており、利用料も払っているが、段々参加者が少なくなつて、施設の利用回数も少なくなつていてと感じていた。たくさん施設があるので、利用者が少ないことは問題であると思う。